

製品名: SMURF 2 (6J9) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe18037**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	ウサギ IgG（リン酸緩衝生理食塩水、pH 7.4、150mM NaCl、0.02% 新型保存料 N、50% グリセロール含有）。短期保存は+4°C、長期保存は-20°Cで保存してください。凍結融解サイクルは避けてください。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	86kDa

抗原情報

遺伝子名	SMURF2
別名	hSMURF2; SMUF2_HUMAN; Smurf2;
遺伝子 ID	64750.0
SwissProt ID	Q9HAU4
免疫原	ヒト SMURF2 の合成ペプチド

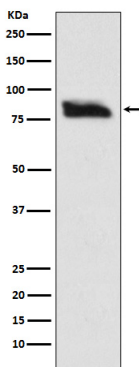
背景

E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼは、E2 ユビキチン結合酵素からチオエステルの形でユビキチンを受け取り、標的基質に直接転移します。SMAD1 および SMAD7 と相互作用し、それらのユビキチン化およびプロテアソーム依存性分解を引き起こします。E3 ユビキチン-タンパク質リガーゼは、E2 ユビキチン結合酵素からチオエステルの形でユビキチンを受け取り、標的基質に直接転移します (PubMed:11016919)。SMAD7 と相互作用し、SMAD7 を介したトランスフォーミング成長因子β/TGF-β 受容体のユビキチン依存性分解を誘導し、TGF-β シグナル伝達をダウンレギュレーションする (PubMed:11163210, PubMed:12717440)。さらに、SMAD7 との相互作用は自己触媒分解を活性化するが、これは AIMP1 との相互作用によって阻害される (PubMed:18448069)。また、TGF-β 受容体を介したリン酸化 SMAD1、SMAD2、および SMAD3 と安定な複合体を形成し、SMAD1 および SMAD2 をユビキチン化およびプロテアソームを介した分解の標的とする (PubMed:11016919, PubMed:11158580, PubMed:11389444)。SMAD2 は SNON などの基質をユビキチン依存性分解にリクルートする可能性がある (PubMed:11389444)。TGFβ1 誘導性の上皮間葉転換および筋線維芽細胞の分化を負に制御する (PubMed:30696809)。

研究分野

-

画像データ



SH-SY-5Y 細胞溶解物における SMURF 2 発現のウェスタン プロット解析。